## 酒と女性に厳しいイスラム教の国

岩本友則

「9\_試される語学力」においてイラクの「ナンパ罪」について紹介いたしましたが、私が滞在した 当時のイスラム教の国における異文化(酒事情等)について紹介しましょう。ただし、ここで紹介で きるのは、私が滞在した当時の状況であり、現在の状況と異なると思います。

## 1. テヘラン空港、イスラム教遵守

現在のテヘラン国際空港は、エマーム・ホメイニー空港ですが、私の訪問当時のイランの空の 玄関は、メヘラーバード国際空港でした。



飛行機が着陸すると飛行機がターミナルにつくまでの間に、女性達は、スカーフのようなもので顔を覆い、マントのようなものを羽織るのです。それは、女性は身体の線や肌を見せてはならないからで、国籍や宗教関係なく女性がイランで生活するためのルールです。

逆に、テヘランから出発する飛行機に乗ります。すると、女性たちは、座席に付く

なり解放されたかのようにスカーフや身体を覆っている上着を取るのです。

## 2. 交通事情

イランには、鉄道とわずかに地下鉄がありましたが、頼りとなる交通手段はバスとタクシーです。イランでは、長距離路線も含めバス網が整備されておりました。また、市内バスで連結車両の場合は、前が男性で後ろが女性専用と別れた専用車両となっており、車両が分けれていないものは、中で仕切られておりました。従って、家族であっても、男女であれば分かれて乗車しなければなりません。(長距離バスは、男女分かれているか否か定かではありません。)

2004.04.14

もう一つの交通手段は、右の写真にあるタ

クシーです。不思議なことに、市内バスは、男女の仕切りが厳格であるにもかかわらずタクシーは、 乗り合いで男女の仕切りが無いのそうです。時として、痴漢も起こるのだそうです。ですから、イ ランでは女性一人でタクシーに乗ることは危険なのだそうです。

## 3. イラン・イラクの酒事情

イラクでは、レストランやホテルには、酒類は一切ありませんでしたが、街ではイラク製のビールなどが売っており、買うことが出来ました。そして、ホテル等に持ち帰り飲むことが出来ました。 同僚たちは、イラクのビールは安くて旨いと言って飲んでいるのです。また、ある時、査察に行った施設でロシアのウオッカに似た酒を製造していました。イスラム教の国でこれは珍しい日本へのお土産にしようと考え、購買を申し出たのです。すると、彼らは、お金はいらないと言って、私たちの車に箱で積んでくれたのです。ロシア人のニックは、冷凍庫に入れてシャーベット状にして飲むことを進めてくれました。しかし、アルコール度 60℃を超える酒、飲めるわけがありません。お土産として日本に1本だけ持ち帰りました。

イランでは、酒類は全くありません。飛行場のビジネスラウンジすら酒類は無いのです。唯一、

あったのが、アルコール「0」のビール です。

やはり、イスラム原理主義の国、ホメイニ師のおひざ元では、酒類の統制は、 完璧なのです。

参考までに、右は、私のイラン入国の ためのビザです。

このビザが、私のパスポートに数枚貼ってあったことから、後に、アメリカ入国における入国審査において、怪しい人物として毎回、物議をかもすことになったのです。

